

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念があり、職員が理念を意識しながらサービスを提供している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に基づき、利用者にとって生活しやすい環境作りが出来るよう、話し合い日々取り組んでいる。	○	職員全員が理念の意味を共通して理解し、話し合いサービスの質の向上につなげたい。
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族には口頭では伝えているが、パンフレット等には理念を記載しておらず、また地域に対しての理念の説明を現在の所行っていない。	○	今後パンフレット等を使用し、地域へ理念等の説明を行っていききたい。
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	利用者の家族の方の面会はあるが、隣近所の方との日常的な付き合いは、ほぼない。	○	隣近所の方達が気軽に立ち寄ったり出来る様な近所付き合いを、作り取り組んでいきたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近所の方が立ち寄る機会が少なく、町内会にも入っていない為、地域の方との交流が少ない。	○	地域との付き合い等について今後検討していききたい。
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在の所、地域高齢者等の暮らしに関して話し合う場を設けていない。	○	地域の研修や啓発の場に職員が出かけて行き、地域に貢献できるように取り組んでいきたい。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価を活かし、改善しなければいけない項目に関してミーティング等で話し合い、改善に取り組んでいる。	○	自己評価を実施し、自分に必要な事等見直し、質の向上に努めていきたい。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回以上開催しており、参加メンバーから質問、意見、要望を受け、双方向的な会議になるよう配慮している。	○	今後も会議を開催していく事で、事業所に対する理解を深めていただくと共に、事業所のサービスの向上に努めていきたい。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当者の方が調査に来られた際等に、事業所の実情やケアサービスについての取り組みを説明しているが、問題解決に向けて協働等は、現在の所行っていない。	○	今後は事業所より、町の担当者に積極的に働きかけ問題解決に向けた協働等を行っていきたい。
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	作成した資料を基に、勉強会を行っている。又勉強会終了後、管理者や職員より利用者家族への説明等も行っている。	○	今後も、制度に関しての理解と活用に努めていきたい。
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現在の所学ぶ機会を設けていないが、日々のケアの中で注意を払い、危険の早期発見に努めている。	○	虐待について学ぶ機会を持ち、対応方法について職員同士での共通理解を深めていきたい。
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、事業所として出来ること、出来ないことを明確に説明するように努めており、又契約の改定（医療連携加算について）をする場合は、利用者・家族等にその積算根拠を示して説明を行い、納得を得ている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情処理相談窓口のポストを設け、 又苦情があった際は、申し送りノートや連 絡ノートを活用し経過や結果を職員に伝え 早期に問題が解決できるように取り組んで いる。		
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をして いる	家族の方が面会に来られた際に、現在の状 況を報告すると共に、毎月の出来事をまと めた書類を送り、家族等の安心を確保出来 る様に努めている。	○	
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関入り口に苦情処理相談窓口を設置した り、家族会などを設け、家族同士が気軽に 話が出来るように取り組んでいる。また運 営推進会議のメンバーに家族も含まれてお り、それらの意見や苦情を運営に反映させ ている。		
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている	ミーティングの際などに職員の意見を聞く 機会を設けて、運営に反映させている。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている	余裕を持った人員を確保出来てはいない が、管理者と職員が話し合い、柔軟な対応 が出来ると、努めている。	○	人員が確保出来、利用者や家族の方に、質 の良いサービスが提供出来る様にしてい きたい。
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職を最小限に抑えるよう、面談等 を行っている。	○	今後も職員の離職を最小限に抑えるよう 努めていきたい。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用に当たっては年齢別や性別、資格の有無等で採用時の差別はしていない。また職員の特技や経験が生かされるように配慮している。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	理念に基づいて1人ひとりの個性やこれまでの歴史を大切にすることは毎日の申し送りなどで確認を行っているが、人権教育のための講習会、勉強会に出席したり、参加することはしていない。	○	今後勉強会や講習会参加を行ってきたい。
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員の研修マニュアルがあり、新人職員には段階を追って業務に取り組んでもらっている。又パート職員にもチームの一員として主任としての業務を行ってもらったり、会議に参加してもらっている。	○	今後職員の知識・技術の向上を図る為、研修等に参加して行ける様に努めていきたい。
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地元のグループホーム連絡協議会に加入している。	○	連絡協議会を通じて今後他の同業者との連携を図っていきたい。
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者による職員のストレス解消の為に面接を行っている。	○	今後も職員のストレス解消に努めていきたい。
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年に1回職員の健康診断やインフルエンザの予防接種を行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初回面談の際に、本人の思いを出来るだけ聞きだすと共に、日々のケアの際に困っている事、不安な事、求めている事等を聞く機会を設け、安心して生活できるよう努めている。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族と話をする上で、思い等を聞き出し、状況を把握した上で信頼関係が築ける様にしている。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	個人個人に合ったサービスを提供する上で、当事業所に対応できない場合は、他のサービスを利用し対応している。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人に十分に説明と見学等を行い納得した上でサービスを利用して頂ける様に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活の中で、家事等、どちらか一方が行うのではなく共に支えあい、協力するように努めている。		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会の際などに家族と話す機会を作り、思いや願いを見出し、より良い援助が出来る様、関係作りに努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者の思いや家族の方の思いを双方に伝え、又家族の方が疎遠になっている場合電話等を行い、より良い関係が築ける様、支援に努めている。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の方が、行きたい場所や会いたいと思う方が居れば、要望に合わせ対応している。		
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え渾えるように努めている	利用者個々の人格に合わせ、他者と交流が図れる様、援助方法を考え対応している。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後家族の方からの相談を受ける機会が今の所ない。	○	契約終了後も、相談等の対応は継続して行っていきたい。
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の表情や行動の観察、傾聴にて思いを見出し把握に努め対応している。		
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人ファイルの生活歴に目を通したり、家族からの情報を聞き入れ一人ひとりの把握に努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個人カルテに状態変化があれば記入し、全職員がファイルに目を通し把握できるようにすると共に、朝・夕の申し送りを行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月に1回カンファレンス会議を実施。家族の方が出席できない場合も、面会時に意見を聞き、意見を反映した介護計画を作成している。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態の変化に応じて、カンファレンスを開催し、新たなケアプランの作成を行っている。		
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態の変化や実践内容を個別カルテに記入し、把握に努め、結果に合わせた介護計画の作成に努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の状態に合わせ、他サービス利用を行い、柔軟な支援に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	避難訓練の際消防署の方に来て頂き、又図書館に本を借りに行く等、地域資源を活用している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の他のケアマネージャーと話し合い、リハビリ等のサービスを利用している。又その他にも、理美容や整体のサービスを利用している。	○	今後も必要に応じて、他のサービスを利用する事が有れば、他事業所のケアマネージャーに相談する等を行っていきたい。
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターと今の所協働していない。	○	今後入居者等の状況等を踏まえた上で、地域包括支援センターとの協働を検討していきたい。
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者それぞれに主治医がおり、定期・随時に受診している。又協力医療機関の医師に週1回往診をして頂き、その際に現在の状況を報告し、連携を図ると共に、適切な医療を受けられるように支援している。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入居者により、主治医が違う為、必ずしも専門医からの診断や治療を受けているわけではない。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週1回訪問看護師に来て頂いており、バイタルチェックや健康管理等をして頂き、気になることがあれば相談し、アドバイスを頂いている。又24時間連絡が行えるよう連絡先を各個人ファイルに添付している。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院した際に、ご本人が安心できる様、家族と病院、職員が常に情報交換を行い連携を図っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	当事業所の指針を基に、本人の意思を尊重する事はもちろん、家族の意向を取り入れ、主治医、事業所全員で話し合いをして対応している。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人、他の利用者にとって良い方法を職員全員で考え、医師と連携を取りながら支援を行っている。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人のダメージを最小限に抑える為に、情報を十分に関係者及び本人に伝え、状況を十分に把握して頂けるように努めている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄の声掛けや、失禁等が見られる利用者に対して、他の利用者、外来者等に聞こえない様、小さな声で声掛けを行う等その場の状況に合わせた対応を行うようにしている。	○	今後も、申し送りやミーティングの際などに話し合い、全職員がプライバシーの確保に関して共通した意識・対応が行えるように努めていきたい。又当事業所の基本方針に基づき個人情報の取り扱いにも十分に気をつけていきたい。
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者と会話を図り希望等がある際、耳を傾け話し合いの場を持ち、自己決定を出来る様に支援している。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時間など、職員の多い日中の時間帯になる事が多く、入居者のペースに合わせた対応が十分に行えていない。	○	日によって職員側の都合を優先する事がある。一人ひとりのペースや意見を尊重し、過ごしやすい環境を作っていきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	上着やズボンなどを何着か出し、ご本人に出来るだけ選んで頂いている。理容・美容は月に1度美容師が訪問してくれており、希望のある方には美容室へ出掛けている方もいる。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	声掛け又は、入居者の方自己にて、皿洗いや、配膳、後片付けなどを行って頂いている。食事の際は入居者の方と一緒に話をしながら食事をしている。	○	
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人ひとりの状況に合わせて日常的に嗜好品を楽しむという事が出来ておらず、個別としての支援が必ずしも行っていない。	○	一人ひとりの好みのものを職員が把握し、楽しんで食べて頂ける様に支援していきたい。
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の間隔をカルテに書き込みデータを取り、一人ひとりに合わせた排泄への声掛けや誘導にて失敗やおむつの使用を減らしている。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間帯など、職員の多い日中になる事が多く、必ずしも入居者のベースに合わせた時間帯に対応が出来ていない。	○	1人ひとりの希望等を取り入れ、入浴を楽しんで頂ける様に努めていきたい。
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	1人ひとりの状態に合わせて、休息の時間を作っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の趣味を取り入れ、個別又は利用者全員のレクリエーションとしてカラオケ等を行っている。	○	今後も日々のケアの中で、1人ひとりの趣味や取り組みたい事を職員が把握し、取り入れていく。
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を所持している利用者は外出の際、使用できるように支援している。	○	小遣い程度を自己にて所持している方もいますが、ほとんどの方がお金を手にすることがない為、お金を手にして自己にて買い物をする機会を作って行きたい。
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	必ずしもその日に行けるというわけではないが、希望に合わせて後日実施し対応している。	○	その日の希望にそえる様に一人ひとりの意見を大事にし、聞き入れ支援していく。
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	職員の意見で、外出先を決めている。	○	家族と利用者がいつでも出掛けられるように支援している。
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により電話をかける方もいる。	○	今後は手紙のやり取り等支援して行きたい。
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	ご家族や知人の方が面会にこられた際には、お茶を出したり、アルバムを見て頂いたり、時には居室で過ごして頂いたり居心地の良い空間作りに取り組んでいる。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のマニュアルを作成しており、拘束をしないケアの内容をミーティング等で話し合い、日頃のケアを実施している。	○	今後も勉強会を開く等をして、身体拘束に関する知識を深めていきたい。
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	裏の勝手口のみ安全性の確保の為、鍵をかけているが他の場所は鍵をかけていない。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者一人ひとりの居場所を把握し、けがのないよう安全面に配慮している。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要なはさみや包丁等は数を数え、毎日夕食後に手の届かない決まった場所へ保管されており、又チェック表による確認も実施している。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	介護事故発生後の対応マニュアルや火災発生時の対応マニュアルはあるものの、予防に関する知識を学ぶ機会が少ない。	○	ミーティング等で勉強会や研修を開き、職員全員が知識を学ぶ機会を増やしていきたい。
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当や初期対応の訓練は定期的に行われていない。	○	今後ミーティングや研修にて定期的に学ぶ機会を増やしていきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災や地震等の災害時のマニュアルがあり職員全員がマニュアル表に目を通し理解し訓練を行っているが、地域の方の協力は得られていない。	○	今後避難訓練等を行う際は、地域の方に呼び掛け、共に行えるように努めていきたい。
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	日々様子観察を行い、申し送り帳に記録し職員が状態把握する。異常があれば病院受診し、家族に報告している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルチェックを行い、体調の変化のある方には、定期的にバイタルチェックや、主治医に連絡し受診を行っている。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋や医師からの説明を申し送り帳、個人カルテ、朝・夕、の申し送りの際に伝達し、職員一人ひとりが薬の把握をしている。服薬後の症状の変化も観察を行っている。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘ぎみの方には、身体を動かして頂いたり、食事や、水分、おやつ等の見直しをし、医師とも相談しながら支援を行っている。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアを行っており、磨き残しや、自己にて歯磨きの出来ない方には介護者が行い、又歯科との連携も行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考え献立を決める職員がおり、一人ひとりの水分量等を職員が把握し対応している。		
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症についてのマニュアルを常に職員が見れる場所へ置き、又その資料を基に勉強会を開催し、感染症予防についての対策を日々のケアの中で実施している。		
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は一日の必要量を配送してもらい使い切るようにしている、残った場合保存のきく食材は、冷蔵庫で後ろ入れ、前出し方式で管理。調理器具は日を決めて消毒を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りに植木鉢を置き、花等を植えて出入りのしやすい工夫をしている。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を壊さない様、手作りのカレンダーや、野花等をフローアや玄関に飾っている。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとり各居室があり、利用者同士行き来できる様な空間作りのお手伝いをしている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前に自宅で使用していたタンスや、使い慣れたものを居室で使って頂いたり、居心地の良い部屋作りの工夫をしている。		
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	フローア内に温度計を置き、フローア内の温度調整をしたり、定期的に窓を開け換気を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個別の身体機能に合わせた補助器具を使用し、安心して過ごしていただく様環境づくりに努めている。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人の居室には名前も貼っていますが、さりげない飾り付けをし、目印として工夫しています。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	園庭に野菜や花を植え、育てたりテーブルや椅子を設置しており、利用者同士が会話を楽しんだり、おやつを食べたり出来るようにしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2／3くらいの ③利用者の1／3くらいの ④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）			
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と		②家族の2/3くらいと
				③家族の1/3くらいと		④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている		①ほぼ毎日のように		②数日に1回程度
				③たまに		④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている		②少しずつ増えている
				③あまり増えていない		④全くいない
100	—	○職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が		②職員の2/3くらいが
				③職員の1/3くらいが		④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が		②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが		④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が		②家族等の2/3くらいが
				③家族等の1/3くらいが		④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

食事のバランスや栄養がしっかりしており、利用者全員から、毎食残さず「おいしい」と頂いてもらっている。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【 I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念があり、理念に基づき日々サービスを提供している。	○	サービスの質の向上を計る為に、今後も理念の再確認を行うと共に、勉強会等でサービスの質の向上に繋がる知識を学ぶ機会を増やしていきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実践に向けて、毎日朝・夕にミーティングを行い、話し合いの場を設けている。	○	理念を全職員が熟知し、より良いサービスを提供出来る様に、継続して話し合いの場を設け、日々のケアに反映させていきたい。
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族には口頭では伝えているが、パンフレット等には理念を記載しておらず、また地域に対しての理念の説明を現在の所行っていない。	○	今後パンフレット等を使用し、地域へ理念等の説明を行っていきたい。
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	利用者家族の面会はあるが、隣近所との付き合いはあまりない。	○	行事を行う際近所に呼び掛け、参加を促し交流を図っていきたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近所の方が立ち寄る機会が少なく、町内会にも入っていない為、地域の方との交流が少ない。	○	地域との付き合い等について今後検討していった。
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在ミーティング等で話し合う機会を設けていない。	○	今後研修や啓発の場に行き勉強をして行きたい。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価を基に改善しなければいけない所を話し合い、改善に取り組んでいる。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回以上開催しており、参加メンバーから質問、意見、要望を受け、双方向的な会議になるよう配慮している。	○	今後も会議を開催していく事で、事業所に対する理解を深めていただくと共に、事業所のサービスの向上に努めていきたい。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当者の方が調査に来られた際等に、事業所の実情やケアサービスについての取り組みを説明しているが、問題解決に向けて協働等は、現在の所行っていない。	○	今後は事業所より、町の担当者に積極的に働きかけ問題解決に向けた協働等を行っていききたい。
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	ミーティングで成年後見制度の勉強会を行い、家族が面会にこられた際、職員や管理者より説明を行っている。		
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者に対して介護を行う際は注意を払い、虐待の危険を早期に発見できる様に努めている。	○	今後勉強会などで、虐待防止法についての知識を深めていきたい。
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、事業所として出来ること、出来ないことを明確に説明するように努めており、又契約の改定（医療連携加算について）をする場合は、利用者・家族等にその積算根拠を示して説明を行い、納得を得ている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情があった場合申し送り・連絡ノートを活用し、経過や結果を報告しあい早期に対応することにより問題の解決に取り組んでいる。又苦情相談窓口を設置している。		
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に一度利用者の様子を要約にまとめて、家族に郵送し、報告している。面会にこられた際にも状況を説明し、外出時にとった写真などを拝見して頂いている。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関入り口に苦情処理相談窓口を設置したり、家族会などを設け、家族同士が気軽に話ができるように取り組んでいる。また運営推進会議のメンバーに家族も含まれており、それらの意見や苦情を運営に反映させている。		
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	余裕を持った人員を確保出来ず管理者と職員が話し合い、柔軟な対応が出来る様調整に努めている。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	面会の際各家族・利用者の訴えに常に耳を傾け柔軟な対応に努めている。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職を最小限に抑えるよう、面談等を行っている。	○	今後も職員の離職を最小限に抑えるよう努めていきたい。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用に当たっては年齢別や性別、資格の有無等で採用時の差別はしていない。また職員の特技や経験が生かされるように配慮している。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	理念に基づいて1人ひとりの個性やこれまでの歴史を大切にすることは毎日の申し送りなどで確認を行っているが、人権教育のための講習会、勉強会に出席したり、参加することはしていない。	○	今後勉強会や講習会参加を行ってきたい。
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員の研修マニュアルがあり、新人職員には段階を追って業務に取り組んでもらっている。又パート職員にもチームの一員として主任としての業務を行ってもらったり、会議に参加してもらっている。	○	今後職員の知識・技術の向上を図る為、研修等に参加して行ける様に努めていきたい。
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地元のグループホーム連絡協議会に加入している。	○	連絡協議会を通じて今後他の同業者との連携を図っていきたい。
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者による職員のストレス解消の為に面接を行っている。	○	今後も職員のストレス解消に努めていきたい。
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年に1回職員の健康診断やインフルエンザの予防接種を行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初回面談の際に、本人の思いを出来るだけ聞きだすと共に、日々のケアの際に困っている事、不安な事、求めている事等を聞く機会を設け、安心して生活できるよう努めている。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族と話をする上で、思い等を聞き出し、状況を把握した上で信頼関係が築ける様にしている。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	地域のケアマネージャーに相談し、他のサービス機関を利用している。	○	今後も入居者のニーズに応じて、地域のケアマネージャーと連携を図りながら、他のサービス機関を活用して行きたい。
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人に十分な説明や見学等を行い、納得した上でサービスを利用して頂ける様に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の目線に立って物事を考え、時には協力し合いながら日々のケアに取り組んでいる。		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の訴えと共に、面会の際等に家族の思いに耳を傾け、日々の生活に反映させている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	外出時家族にも声掛けを行い一部ではあるが、一緒に出掛けて、本人と家族の思い出作りに取り組んでいる。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員は出来る限り、利用者一人ひとり要望を聞き対応できるように努めている。		
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者が一人で過ごす時間を少なくする為時間を決め、レクリエーション等を行っている。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後、家族の方から相談等を受ける事が現在ない。	○	契約終了後も、相談等の対応は継続して行っていきたい。
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各利用者に対し担当者がいるので、担当者は把握に努めている。又担当者以外の職員にも個人カルテを見てもらい利用者の意向の把握に努めている。		
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人ファイルの生活歴に目を通したり、家族からの情報を聞き入れ1人1人の把握に努めている。	○	生活歴を活かし一日の生活の中で本人が今まで生活してきた環境づくりをしていきたい。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個人カルテに状態変化があれば記入し、全職員がファイルに目を通し把握できるようにすると共に、朝・夕の申し送りを行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の意向を聞き、カンファレンスを開き、それぞれの意見を出し介護計画の作成をしている。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態の変化に応じて、カンファレンスを開催し、新たなケアプランの作成を行っている。		
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態の変化や実践内容を個別記録に記入し、把握に努め、結果に合わせた介護計画の作成に努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	週1回訪問看護師と連携を図り、入居者の身体面・精神面についてサービス方針の検討を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	避難訓練の際消防署の方に来て頂き、又図書館に本を借りに行く等、地域資源を活用している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の他のケアマネージャーと話し合い、リハビリ等のサービスを利用している。またその他にも、理美容や整体のサービスを利用している。	○	今後も必要に応じて、他のサービスを利用する事が有れば、他事業所のケアマネージャーに相談する等を行っていきたい。
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターと今の所協働していない。	○	今後入居者等の状況等を踏まえた上で、地域包括支援センターとの協働を検討していきたい。
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を尊重しつつ、事業所の協力医療機関に同意して頂き、納得して頂いている。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入居者により主治医が違う為、必ずしも専門医からの診断や治療を受けているわけではない。	○	認知症専門医と連携を図り、各利用者1人ひとりにあった治療方針を検討していきたい。
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週1回訪問看護師が来られ、バイタル等をチェックして頂き、利用者の状態を観察し、情報交換や相談を行っている。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院した際に、ご本人が安心できる様、家族と病院、職員が常に情報交換を行い連携を図っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	当事業所の指針を基に、本人の意思を尊重する事はもちろん、家族の意向を取り入れ、主治医、事業所全員で話し合いをして対応している。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人、他の利用者にとって良い方法を職員全員で考え、医師と連携を取りながら支援を行っている。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	情報を十分に関係者に伝え又本人と家族を含めた話し合いの場を設けている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室のP-トイレ介助の際、見えないように前にタオルを掛けるなどして、配慮している。守秘義務は守られている為、外部に漏れることはない。	○	今後も研修を行い言葉遣いに十分に気をつけていきたい。
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の意見を常に傾聴し、話し合いの場を持ち、自己決定できる様に支援している。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合が中心になる事が多く、利用者のペースに添っていない。	○	日によって職員側の都合を優先する事がある。一人ひとりのペースや意見を尊重し、過ごしやすい環境を作っていきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し美容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	月に一度理髪店の方が来られ、散髪を行っている。希望者は美容室へパーマをかけに行っている。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を立てる際、利用者の好みを聞きメニュー作りに生かしている。調理時材料の下ごしらえを手伝って頂いたり配膳や下膳も手伝って頂いている。		
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の好きな飲み物、おやつは定期的に購入している。身体自立の利用者は自分で購入されている。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	日々排泄チェックを行いながら、一人ひとりの排泄パターンを把握している。声掛けを行いながらトイレ誘導を行っている。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴する際、必ず声掛けを行い入浴して頂いている。その際、本人の希望されている時間を尊重している。又体調等考慮しながら対応している。		
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	各自個室があり昼食後昼寝をされたり、好きなTVを観賞されて気持ちよく生活されている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	晴れた日は外に散歩や畑作業や各利用者の趣味を取り入れた生活を行っている。		
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の際職員が利用者に付き添い会計に立ち会う等、日常から金銭感覚を身に付ける様、援助している。		
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	歩行困難な利用者の方も、車、車椅子使用での外出援助を行っている。		
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ユニットとしての外出は多いが、個別での外出は少ない。外出の際、家族に声掛けし、参加される方は一緒に外出されている。	○	利用者1人ひとりに行きたい所等を聞き、外出の援助を行っていく。
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用は自由であり、希望者はいつでも使えるようにしている。	○	暑中見舞いや年賀状や行事の写真などを同封し、手紙を送るなどの援助を行っていく。
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	共同スペース内にソファがあり、訪問してこられた方と楽しく談笑できるスペースがある。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のマニュアルを作成しており、拘束をしないケアの内容をミーティングなどで話し合い、日頃のケアを実施している。	○	今後も勉強会を開くなどをして、身体拘束に関する知識を深めていきたい。
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵が付いておらず、自由に入出入り出来ている。玄関外に出て行く利用者には声掛けを行い対応し、職員全員把握する様に努めている。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	共同スペースに利用者だけにならないように努め、職員同士声掛けしあいながら対応している。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要なはさみや包丁などは数を数え、毎日夕食後に手の届かない決まった場所へ保管されており、又チェック表による確認も実施している。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	介護事故発生後の対応マニュアルや火災発生時の対応マニュアルはあるものの、予防に関する知識を学ぶ機会が少ない。	○	ミーティングなどで勉強会や研修を開き、職員全員が知識を学ぶ機会を増やしていきたい。
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当や初期対応の訓練は定期的に行われていない。	○	今後ミーティングや研修にて定期的に学ぶ機会を増やしていきたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事業所の訓練はあるが地域住民の参加協力は少ない。	○	今後避難訓練等を行う際は、地域の方に呼び掛け、共に行えるように努めていきたい。
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	日々様子観察を行い、申し送り帳に記録し職員が状態把握する。異常があれば病院受診し、家族に報告している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタル測定を行い、異常があれば再測定様子観察を行い、病院受診等の対応をしている。朝・夕の申し送り時等に利用者の状態を報告する事が出来ている。状態をカルテ、申し送り帳に記載し、全員が情報を共有するようにしている。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は処方箋に目を通し、利用者の薬の内容を把握し、服薬介助を行い、症状・変化を確認し主治医と相談等を行っている。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事のメニューの中に野菜類を多く含み自然排便できる様に心掛け手ている。体操等を行い、消化をよくする様にしている。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアを行っている。自己にて行える利用者には声掛けにて促し、行って頂き、介助が必要な利用者は、介護者の介助にて行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1600カロリー、水分1000ccを目安に食事の栄養バランス、水分量をチェック行っている。糖尿病の方には医師の指示のもと主食量、減塩等の調整を行っている。		
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	インフルエンザの予防接種を行っている。感染症対策マニュアルがあり、勉強会を行っている。	○	今後も感染症に関して、勉強会等を行い知識を深めていきたい。
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は一日の必要量を配送してもらい使い切るようにしている、残った場合保存のきく食材は、冷蔵庫で後ろ入れ、前出し方式で管理。調理器具は日を決めて消毒を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りに植木鉢を置き、花などを植えて出入りのしやすい工夫をしている。	○	家族の出入りはあるが近隣の人等の出入りはない。気軽に出入り出来るように改善していきたい。
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同スペース内には季節ごとに壁画を飾り、花を飾ったりしている。不快音や光など、特に利用者からの苦情はない。	○	今後も利用者の作品を展示していきたい。
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子を配置し、食卓テーブルの席以外で過ごせる場所がある。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、本人が使い慣れた物を持って来て頂いたり、スペースの限りがあるが、もちこみ物に制限がない為、実施できている。		
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度調整は出来ている。定期的に換気を行っている為、臭いや空気のだよみはない。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベットの高さなど、利用者が安全に使える高さにしており、居室、共同スペースにも手すりがあり転倒防止になり、安全に生活できる工夫がされている。	○	浴室、浴槽に手すりはあるが滑り止めマット等がないので検討したい。
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者の各居室には名前が付いており、部屋やトイレがわからない際は声掛けして誘導している。	○	トイレ、浴室の表示が小さく間違える利用者があるので、改善したい。
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑や花壇があり、利用者と職員で作業を行ったりしている。		

※ は、福岡県独自の項目。

※ WAMNETに公表する際には、評価結果と併せて自己評価票も掲載されます。

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）			
V サービスの成果に関する項目						
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		○	①ほぼ全ての利用者の	
					②利用者の2/3くらいの	
					③利用者の1/3くらいの	
					④ほとんど掴んでいない	
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		○	①毎日ある	
					②数日に1回程度ある	
					③たまにある	
					④ほとんどない	
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		○	①ほぼ全ての利用者が	
					②利用者の2/3くらいが	
					③利用者の1/3くらいが	
					④ほとんどいない	
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		○	①ほぼ全ての利用者が	
					②利用者の2/3くらいが	
					③利用者の1/3くらいが	
					④ほとんどいない	
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		○	①ほぼ全ての利用者が	
					②利用者の2/3くらいが	
					③利用者の1/3くらいが	
					④ほとんどいない	
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている		○	①ほぼ全ての利用者が	
					②利用者の2/3くらいが	
					③利用者の1/3くらいが	
					④ほとんどいない	
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている		○	①ほぼ全ての利用者が	
					②利用者の2/3くらいが	
					③利用者の1/3くらいが	
					④ほとんど掴んでいない	

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）			
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
				①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
				①ほぼ毎日のように		
				②数日に1回程度		
				③たまに		
				④ほとんどない		
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
				①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
100	—	○職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
				①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
				①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
				①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどできていない		

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

料理はインスタント類は使っておらず、利用者からもおいしいとの声が聞かれる。季節の食材を使用して調理している。